

科 目				担当者（○主担当）					
キャリアデザイン2				○杉本和也（2年生担任）					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>アカデミー2年目の1年間を有意義に過ごすためにも、卒業後の就職先・進学先の具体的なイメージを描くことが必要である。キャリアデザイン2は就職・進学に向けて計画的に活動するための授業である。本科目では、まず、就職・進学に向けて具体的な計画をたてることからスタートする。企業説明会や、別で行う企業研修を通して、就職先の仕事内容を把握する。そして、企業研修の内容を同級生や1年生に向けて発表することで共有し、明確なイメージを持って就職・進学を達成することを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路にあわせた就職・進学のための活動を計画することができる。</li> <li>・企業研修の内容を分かりやすくプレゼンすることができる。</li> <li>・就職・進学の明確なイメージを持つことができる。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 講義室で説明を行った後で、各自で調査を行い進路計画を作成する。 アカデミーで実施する企業説明会に参加する。 企業研修で学んできたことをプレゼンテーションにまとめて発表する。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進路目標・計画を立てる：自分でインターネットや求人票を用いて調査を行い、進路の目標と計画をたてる。</li> <li>2. 履歴書の作成：履歴書を作成する。</li> <li>3. 企業説明会：アカデミーで実施する企業説明会に参加し、企業ブースを訪問し、情報収集を行う。えられた情報をまとめて、企業毎の特徴を比較する。</li> <li>4. 企業研修報告会：別で実施する企業研修の内容を説明するためのプレゼンテーションを作成する。それを用いて、同級生や1年生に企業研修で体験してきたことを伝える。自分の体験に加え、仲間の体験を聞くことで、様々な企業の業務内容の理解を深め、自分の進路の決定に役立てる。</li> </ol>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	キャリアデザイン1、インターンシップ								
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	2年生の学びを活かすも殺すも、一年の最初の計画次第です。もちろん、皆さんの今後の人生にも大きく影響することですので、真剣に取り組みましょう。								

科 目		担当者（○主担当）							
企業研修		○杉本和也（2年生担任）							
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	240	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>就職への意識付けを強くするために、就職希望先の業務を体験し、その仕事や職場・業種が自分に合っているかどうかを肌感覚で確認することは重要である。</p> <p>就職を希望する組織に、自ら研修を受けるための依頼をし、研修を通して仕事内容を理解し、併せて知識・技術を習得する。研修中は日誌をつけ、研修結果は報告書にまとめるとともに発表会において口頭発表する。これらを通して、就職への意識を高め、自身の成長を促すことを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が就職したい業界や企業の仕事内容を知っている。</li> <li>・自ら礼儀正しく動いて、目的の企業にアポイントメントをとることができる。</li> <li>・企業研修で体験した内容を、他人に正確に説明することができる。</li> </ul>								
授業内容	<p><b>【実習の進め方】</b>          自分で行きたい企業を選定し、アポイントメントをとる。          2回の期間に2箇所の企業へ行き、職業体験を行う。          内容をまとめたプレゼン資料を作成し、発表する。          E101 キャリアデザイン2の授業と連携して実施する。</p> <p><b>【実習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修期間：時間割に設定してある7、8月にそれぞれ5日間ずつ2回実施する。原則この期間とするが、研修先と調整により変更する場合は、夏期休暇中など、他の授業に差し障りのない時期とすること。</li> <li>2. 研修希望先の申請（開始の1.5ヶ月前まで）：自ら研修を希望する組織を選定し、担当教員に申請する。</li> <li>3. 研修希望先との調整（開始の1.5ヶ月前まで）：担当教員から研修希望先に対する許可が得られたら、自ら希望先に連絡をとり、研修受け入れのお願いをする。</li> <li>4. 事務局への届け出（開始の1ヶ月前まで）：研修先が決定したら、事務局にインターンシップに則った手続き（相手先情報の提出、依頼文書の作成依頼）を行う。</li> <li>5. 礼状の作成（終了後1週間以内）：企業研修が終了したら、1週間以内に礼状を作成し、事務局に提出する。</li> <li>6. 日報・報告書の提出（終了後2週間以内）：研修日報・研修報告書を担当教員に提出する。</li> <li>7. 研修成果の発表：「企業研修発表会」で研修内容を発表する。</li> </ol> <p><b>【実務者による授業内容】</b>          この授業は、研修先の各企業の実務担当者による実習から主に構成されている。</p>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	キャリアデザイン2								
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ずインターンシップ保険（事務局扱い）に加入すること。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	<p>インターンシップを経験し仕事内容を理解した上での就職が望ましいので、選定の段階から、本当に就職したいところを真剣に選んで下さい。</p>								

科 目				担当者（○主担当）					
森林保護				○津田格					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林、林木に対する危害には虫害、病害、獣害、気象害など様々な物が存在する。それらの危害について、その原因や性質、森林、林木への影響を生理・生態学的に理解する能力をつける。またそれらの危害の予防、駆除の理論と技術的方法論を理解することを目的とする。</p> <p>本科目では森林病虫害を中心に、病気概念、病原生物と宿主の関係等について学ぶ。特に菌類による樹木病害、森林昆虫による被害等を重点的に学び、それらの危害の予防、駆除の理論と技術的方法論を理解する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な樹木病虫害の概要について知っている。</li> <li>・主な病原体の生態、宿主との関係、被害様態について知っている。</li> <li>・主な森林昆虫の分類群、生態について知っている。</li> <li>・病虫害の防除について理論的に考え、適切に対処できる。</li> </ul>								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 樹病概論：主要な樹病について学ぶ。</li> <li>2. 病気概念：植物の病気、病害について学ぶ。</li> <li>3. 病原生物と病害：病原生物のグループと主要な病害について学ぶ。</li> <li>4. 菌類概論：主要な病原生物群である菌類について学ぶ。</li> <li>5. 菌類の生理・生態と感染：菌類の生理・生態と樹木に及ぼす影響について学ぶ。</li> <li>6. 菌類による主要な病害と防除：菌類による主要病害とその防除について学ぶ。世界3大樹病について、病気が広がった要因を理解する。</li> <li>7. 森林昆虫（分類、生理、生態）：森林昆虫の分類群、生理・生態について学ぶ。</li> <li>8. 森林昆虫の被害とその防除：主要な森林虫害とその防除について学ぶ。</li> <li>9. 松枯れ被害と防除：マツ材線虫病の歴史、発病の仕組み、防除法について学ぶ。</li> <li>10. ナラ枯れ被害と防除：ナラ枯れ被害の現状と防除法について学ぶ。</li> </ol>								
テキスト・参考書	参考書：「樹木診断調査法」（講談社）、「樹木医学」（朝倉書店）など								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 40%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 20%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	森林における生物間の関係が人間にとって問題となる場合、森林への危害とみなされます。森林に密接に関わる生業においては、正確な知識、技術を身につけ、適切に対処できるようになりましょう。								

科 目				担当者（○主担当）					
多様な森づくり				○横井秀一					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	45	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林施業は、本来、自然環境や経営方針・経営戦略などに応じた多様なものである。しかし、多様な森林施業を展開するには、相応の自然科学的な知識や造林学的な知識、合理的な思考能力が必要である。</p> <p>本科目では、様々な森林施業の考え方と、そこに適用される林業技術、それを支える科学的根拠などを理解することを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的機能に対する目標林型の考え方を説明できる。</li> <li>・皆伐一斉林施業の長所・短所を説明できる。</li> <li>・択伐林施業が可能な条件を説明できる。</li> <li>・天然更新が可能な条件を説明できる。</li> <li>・広葉樹林を育成する留意点を述べられる。</li> </ul>								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 天然更新：天然下種更新と萌芽更新を学ぶ。天然更新に関わる生態学的知識を学ぶ。</li> <li>2. 皆伐一斉林施業：皆伐一斉林施業における生産目標と目標林型の関係、伐期の考え方、施業体系を学ぶ。皆伐一斉林施業による森林経営の保続を考える。</li> <li>3. 択伐林施業：択伐林施業の考え方と施業方法を学ぶ。択伐林施業による森林経営の保続を考える。</li> <li>4. 広葉樹林施業：広葉樹の樹形と成長の関係を学ぶ。広葉樹天然林施業の考え方と各種作業のしかたを学ぶ。広葉樹造林樹種の特性、広葉樹人工林施業における適地適木と成林阻害要因を知る。</li> <li>5. 針葉樹人工林における広葉樹の扱い：針葉樹人工林に侵入した広葉樹の取り扱い、針葉樹人工林から針広混交林・広葉樹林への転換の考え方と手法などを学ぶ。</li> <li>6. 林業の多様性：自伐林業と請負林業の違いを考える。森林経営・森林施業・施業規模の多様性を考える。</li> <li>7. 森林の公益的機能と目標林型：森林の公益的機能を学ぶ。発揮させたい目的機能別の目標林型の考え方を学ぶ。</li> </ol>								
テキスト・参考書	参考書：「森づくりの原理・原則」「主張する森林施業論」「森づくりの心得」「雪国の森林づくり」「広葉樹の森づくり」など								
事前履修科目	森づくりの基礎、森の生態、森の立地、樹木・木材同定実習、林業の現状								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 40%	4. 取組姿勢 10%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学先は履修状況・相手先の都合などにより決定する。</li> <li>・現地見学時のドレスコード：5見学（山林） 守れない場合は、取り組み姿勢を減点する。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	<p>林業というのは、本来、その土地の自然条件（気象や地形）、経営目標などに応じて多様であるべきものです。この授業を通して、まずはそのことを認識してください。その上で、多様な森林施業を展開するには、どんな知識や考え方が必要なのかを学んでください。</p>								

科 目				担当者（○主担当）					
森林植物同定実習 2				○横井秀一 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林管理、とくに広葉樹林の管理において、樹種を識別・同定できることは必須の能力である。さらに、どんな成育段階の樹木でも、どの季節においても、正しく同定できる能力も身に付けておく必要がある。それと同時に、各樹種がどんな場所に生育し、どんな成長の仕方をするのか、何に利用できるのかを知っていることも必要である。本科目は、主要樹種について、葉以外の特徴でも同定できる能力を身に付けることと、種生態学的特性と利用特性を知ることを目的とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉、樹皮、樹形などから主要樹種（成木）の同定ができる。</li> <li>・主要樹種の実生稚樹や若木の同定ができる。</li> <li>・樹木図鑑を使って、不明樹種の同定ができる。</li> <li>・主要樹種の種生態学的特性と利用特性を説明できる。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 演習林において暖温帯の樹木を、学外の森林において冷温帯の樹木を観察しながら学ぶ。 図鑑を携行して、図鑑の見方と使い方の習熟度を高める。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的用語の理解：主に携帯に関する用語を確認（復習）する。</li> <li>2. 葉による同定：葉によって樹種を同定する。不明な樹種は、図鑑を使って同定する。</li> <li>3. 実生の観察と同定：実生稚樹を同定する。実生が生育する立地を観察し、実生の定着に適した場所の特性を知る。種子散布様式と発芽場所・発芽条件の関係をj知る。</li> <li>4. シュートの観察：シュートの伸長様式を観察し、樹形の形成過程を知る。</li> <li>5. 樹形の観察：樹形を観察し、光獲得戦略に関する樹種特性を知る。</li> <li>6. 樹皮による同定：樹皮で樹種を同定する。</li> <li>7. 利用特性の理解：材を創とする様々な利用方法を知る。利用方法に適した育て方を知る。</li> </ol>								
テキスト・参考書	<p>テキスト：「樹木の葉」 参考書：「検索入門 針葉樹／樹木①②」「樹に咲く花①②③」「葉でわかる樹木」「花実でわかる樹木」など</p>								
事前履修科目	樹木の形態と生理、森の生態、樹木・木材同定実習、森林植物同定実習 1								
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 40%		3. 成果物 0%		4. 取組姿勢 20%		5. その他（） 0%
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、図鑑「樹木の葉」と筆記具・メモ帳を持参すること。持参しない場合は、取り組み姿勢を減点する。</li> <li>・ドレスコード：1実習（一般） 守れない場合は、取り組み姿勢を減点する。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	<p>林業技術者にとって、樹木が同定でき、その特性を知っていることは、基本です。どんな姿であっても樹種が同定できることを目標に、しっかりと樹木を観察してください。</p>								

科 目				担当者（○主担当）					
森林保護実習				○津田格 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林保護の講義で学んだ森林病虫害について、実際に野外においてその発生を発見、診断することにより、それらの病虫害をより深く理解し、予防、防除技術を習得することを目的とする。森林、林木に対する危害に関して、実習を通じて体験的に学ぶ。森林昆虫については、その採集方法、同定、標本作製方法を学ぶ。また里山林において重大な被害をもたらしている松枯れなどの病虫害について、実際に野外においてその発生を観察し、調査、診断を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な樹木病虫害について概要を知っている。</li> <li>・主な病原体の生態、宿主との関係、被害様態について知っている。</li> <li>・病徴、形態、発生時期などから、病虫害を自ら調べ、同定できる。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 授業はフィールドと実験室における実習で実施する。 下記の項目について、各回半日～1日で実施する。 開催順序はフィールドの状況により、前後する可能性がある。</p> <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 樹木病害の観察、診断：周辺の樹木で見られる病虫害について、観察し、同定する。</li> <li>2. 森林昆虫の同定、標本作製：同定、標本作製を通して森林昆虫の分類群を知る。</li> <li>3. マツ材線虫病の調査：樹脂浸出量を調べ、線虫感染木を調査する。</li> <li>4. 枯死木からの線虫の分離：枯死木から線虫を分離する方法を体験する。実際に線虫を観察し、同定する技術を身につける。</li> </ol>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	森林保護								
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成果物 30%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外での実習では、長袖、長ズボン（汚れても良いもの）、ヘルメット着用のこと。</li> <li>・道具類は用意するが、必要に応じて連絡する。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	<p>森林における生物間の関係が人間にとって問題となる場合、森林への危害とみなされます。森林に密接に関わる生業においては、正確な知識、技術を身につけ、適切に対処できるようになりましょう。</p>								

科 目		担当者（○主担当）							
キャンプカウンセラー実習2（応用編・夏）		○萩原裕作							
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	75	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林空間は木材生産の場としてだけでなく「子どもたちの成長の空間」としても活用できる。自然教室（夏のキャンプ）の現場で、子どもたちと向き合うカウンセラーとして活動する事で、森林空間の新たな利活用を知る以外にも、自己を再発見し、お互いを認め合うよい機会でもある。</p> <p>応用編では、昨年の反省を踏まえて、1年生をしっかりとフォロー&amp;リードしながら全体を見て動けるように意識しながら活動してもらう。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林空間が持つ「子どもたちの成長の場」としての可能性を体感する。</li> <li>・子どもたちと向き合う事の楽しさ、難しさを体感し、自分なりの感覚を身につけていく。</li> <li>・活動現場を支えるための企画・準備を体験することで、自分で考えて行動できるようになる。</li> <li>・現場に必要な自然の知識や野外技術、安全管理技術を身につける。</li> <li>・場の全体を捉え、何が必要かに気づき行動できる。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 夏のキャンプ本番は、7月20日～25日の期間で開催する予定（宿泊型。期間中は家に帰れません）。</p> <p>【実習の内容】</p> <p>1. 準備 子供向けキャンプについての基本的な考え方や、子どもたちとの接し方、自分たちのあり方等について、物理的な準備とともに事前研修として学習する。（放課後）</p> <p>2. 実践 本番の体験の中で以下のような項目に触れながら体験学習してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ自然体験が必要か</li> <li>・子どもと向き合うということ</li> <li>・スタッフ同士の連携</li> <li>・自ら考えて行動することとは</li> <li>・今まで経験・学んできたことを活かすには</li> <li>・将来の現場でどう活かせるか</li> <li>・自分になるということ</li> <li>・森林空間の利活用と持続的な林業</li> </ul> <p>3. ふりかえり ふりかえりを通して自らの学びを深めていく。</p> <p>【実務者による授業内容】 森林環境教育現場での経験のある教員（萩原裕作）による実習を含む</p>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 50%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプの本番までの準備期間では、打ち合わせや準備などで放課後に集まることがあります。</li> <li>・直前に宿泊型の研修を行うこともあります。</li> <li>・本番期間中は、子どもと一緒に寝泊まり（テント等）します。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	大変ですが、子どもたちと真剣に向き合える、とてもやりがいのある体験ですよ。是非チャレンジしてみてください。								

科 目				担当者（○主担当）					
林業技術交流				○杉本和也					
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	長野県林業大学校、京都府立林業大学校、アカデミーの3校と林業技術者養成の一層の充実向上を図るため交流に関する連携協定を結んでいる。協定の一環で、2014年から伐木選手権を実施し3校での交流活動や伐倒や枝払いなどチェーンソー技術の競技会を開催している。この科目では3林大の伐木選手権に向けた準備や当日の交流活動を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校との交流を通じて自らの学びを深める。</li> <li>・競技会に向けた練習を行うことで技術を高める。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 2020年度は11月19,20日に京都府立林業大学校で伐木選手権が行われる。当日に向けて出場競技の練習を行う。</p> <p>【実習の内容】 競技種目は開催校が決定し、事前に各校に通達される。例年競技種目は、ソーチェン着脱競技、ロープ上げ競技、合わせ伐り競技、伐倒競技、枝払い競技など。競技種目が決定したら出場競技を決めて練習を行う。</p>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 %	3. 成果物 %	4. 取組姿勢 40%	5. その他（） %				
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生へのメッセージ	他校の学生と交流しましょう！競技も頑張って優勝しましょう！								



科 目				担当者（○主担当）					
森林公共政策				○伊佐治彰祥 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>岐阜県は、全国有数の森林県として知られ、県内の各行政・研究開発機関では、森林・林業・林産業の現状に対応した様々な施策展開や技術の開発、普及の取組が行われている。</p> <p>この科目では、岐阜県林政部、県林業関係研究機関、市町村から講師を招き、森林・林業・林産業の現状と課題、それに対応した施策、試験研究の取り組み等について学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県の森林・林業・林産業の現状と課題を理解している。</li> <li>・関係する行政機関、試験研究機関等を理解している。</li> </ul>								
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岐阜県林業行政の取組： <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県林政部が取り組むの施策の概要と背景、課題を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>2. 市町村林業行政の取組： <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村における林業行政の現状と課題、関係施策を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>3. 試験研究機関の取組： <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林研究所、生活技術研究所の取組概要と背景、課題を学ぶ。</li> </ul> </li> </ol>								
テキスト・参考書	随時プリント配布								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 80%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	4. 取組姿勢 20%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、0.5日×4回で実施する。</li> <li>・講師都合により、日程を変更する場合がある。</li> <li>・クリエイター科森林公共政策と合同授業とする。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	この科目は、県内の行政・試験研究機関、市町村から講師を招き、森林・林業を取り巻く情勢の動向や、取り組み、今後の施策展開等の貴重な情報を直に聞くことができる。貴重な機会を有効に活用してほしい。								

科 目		担当者（○主担当）							
キャンプカウンセラー実習2（応用編・冬）		○萩原裕作							
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>森林空間は木材生産の場としてだけでなく「子どもたちの成長の空間」としても活用できる。自然教室（夏のキャンプ）の現場で、子どもたちと向き合うカウンセラーとして活動する事で、森林空間の新たな利活用を知る以外にも、自己を再発見し、お互いを認め合うよい機会でもある。</p> <p>応用編では、昨年の反省を踏まえて、1年生をしっかりとフォロー＆リードしながら全体を見て動けるように意識しながら活動してもらう。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林空間が持つ「子どもたちの成長の場」としての可能性を体感する。</li> <li>・子どもたちと向き合う事の楽しさ、難しさを体感し、自分なりの感覚を身につけていく。</li> <li>・活動現場を支えるための企画・準備を体験することで、自分で考えて行動できるようになる。</li> <li>・現場に必要な自然の知識や野外技術、安全管理技術を身につける。</li> <li>・場の全体を捉え、何が必要かに気づき行動できる。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 冬のキャンプ本番は、12月13日～15日の期間で開催する予定（宿泊型。期間中は家に帰れません）。</p> <p>【実習の内容】</p> <p>1. 準備 子供向けキャンプについての基本的な考え方や、子どもたちとの接し方、自分たちのあり方等について、物理的な準備とともに事前研修として学習する。（放課後）</p> <p>2. 実践 本番の体験の中で以下のような項目に触れながら体験学習してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ自然体験が必要か</li> <li>・子どもと向き合うということ</li> <li>・スタッフ同士の連携</li> <li>・自ら考えて行動することとは</li> <li>・今まで経験・学んできたことを活かすには</li> <li>・将来の現場でどう活かせるか</li> <li>・自分になるということ</li> <li>・森林空間の利活用と持続的な林業</li> </ul> <p>3. ふりかえり ふりかえりを通して自らの学びを深めていく。</p> <p>【実務者による授業内容】 森林環境教育現場での経験のある教員（萩原裕作）による実習を含む</p>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%		3. 成果物 0%		4. 取組姿勢 50%		5. その他（） 0%
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプの本番までの準備期間では、打ち合わせや準備などで放課後に集まることがあります。</li> <li>・直前に宿泊型の研修を行うこともあります。</li> <li>・本番期間中は、子どもと一緒に寝泊まり（テント等）します。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	夏と違った冬ならではの楽しみがあります。本番は2泊3日と短い期間ですが、その中でどんな活動が子どもたちと一緒に出来るのか？一緒に盛り上げていきましょう。								

科 目				担当者（○主担当）					
総合演習 1				○池戸秀隆（学科主任） 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>技能レベルを高めるには、繰り返しのトレーニングが有効である。また、授業で興味を持った課題を掘り下げる時間でもある。</p> <p>この科目は、規定の授業時間内では十分に学習できなかった場合などに、より実践的な作業練習・調査・研究を実施し、技能を高める、あるいは学習を深めることを目標とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標とする技能や成果を得ている。</li> </ul>								
授業内容	<p>【実習の進め方】 担当教員の指示に従い実習（活動）をすすめる。</p> <p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象とする活動：これまでに履修した科目に関する技能・知識を高めることを基本とする。</li> <li>2. 活動の内容：実習の企画・運営、科目の提供時間を超えた実習時間、実習終了後の報告書作成なども対象とする。また、授業で興味を抱いたことに関する、理解を深めるための調査なども対象とする。</li> <li>3. 活動の認定：担当教員とエンジニア科学科主任との協議を要する。</li> <li>4. 履修認定：規程の時間数の活動を要する。複数の取り組みの活動時間を合算することができる。履修認定・成績評価のため、活動時間と活動内容がわかる「活動実績書」と成果がわかる「成果報告書」の提出を必須とする。必要に応じて成果発表をする。</li> </ol>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の授業に支障がない時間に実施すること。</li> <li>・ 実習内容にふさわしいドレスコードを遵守すること。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	興味ある分野にチャレンジする機会を提供しますので、積極的に取り組んでください。								

科 目				担当者（○主担当）					
総合演習 2				○池戸秀隆（学科主任） 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	<p>技能レベルを高めるには、繰り返しのトレーニングが有効である。また、授業で興味を持った課題を掘り下げる時間も必要である。</p> <p>この科目は、規定の授業時間内では十分に学習できなかった場合などに、より実践的な作業練習・調査・研究を実施し、技能を高める、あるいは学習を深めることを目標とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標とする技能や成果を得ている。</li> </ul>								
授業内容	<p><b>【実習の進め方】</b> 担当教員の指示に従い実習（活動）をすすめる。</p> <p><b>【実習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象とする活動：これまでに履修した科目に関する技能・知識を高めることを基本とする。</li> <li>2. 活動の内容：実習の企画・運営、科目の提供時間を超えた実習時間、実習終了後の報告書作成なども対象とする。また、授業で興味を抱いたことに関する、理解を深めるための調査なども対象とする。</li> <li>3. 活動の認定：担当教員とエンジニア科学科主任との協議を要する。</li> <li>4. 履修認定：規程の時間数の活動を要する。複数の取り組みの活動時間を合算することができる。履修認定・成績評価のため、活動時間と活動内容がわかる「活動実績書」と成果がわかる「成果報告書」の提出を必須とする。必要に応じて成果発表をする。</li> </ol>								
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	総合演習 1								
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 20%	4. 取組姿勢 30%	5. その他（） 0%				
関連する資格	特になし								
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「総合演習 1」を履修済みの場合に履修を可とする。</li> <li>・ 他の授業に支障がない時間に実施すること。</li> <li>・ 実習内容にふさわしいドレスコードを遵守すること。</li> </ul>								
学生へのメッセージ	興味ある分野にチャレンジする機会を提供しますので、積極的に取り組んでください。								